

「豊の供給等の協力に関する協定



協定を締結する國枝委員長（右）と富田市長

避難所でも豊で安心を

市は4月21日、全国の豊製造業者でつくる「5日で5000枚の約束」プロジェクト実行委員会と協定を締結しました。災害時に市の要請に応じて委員会が避難所に新しい豊を提供するもので、避難所の生活環境の向上を図ります。

國枝幹生東海地区委員長は「豊の提供で、被災者の心身を少しでもやわらげたい。防災訓練の参加など支援をしていきたい」と話しました。

豊蔵作陶の地 一般公開始まる

4月28日に久々利大萱で荒川豊蔵作陶の地の一般公開がはじまり、市内外から多くの来場者が訪れました。

ここ大萱は国宝志野茶碗銘・卯花^{うのはな}が焼かれたとされ、豊蔵が志野の陶片を発見し作陶に励んだ地です。今後はこの「美濃桃山陶の聖地」を教育や交流の拠点として活用していきます。

来場者は豊蔵が最も大切な場所としていた随縁の石碑を居宅から眺めながら、当時の暮らしや仕事ぶり、大萱の環境に育まれた感性に触れるひと時を味わっていました。

生前の豊蔵を訪ねたことがある人は「自然豊かだが厳しい環境の中、高い感性を研ぎ澄ましていたその存在感には圧倒されるものがあった」と当時のことを思い出していました。



自然に囲まれた高台にある居宅



陶房の前で説明を聞く来場者

伝統の祭礼、盛大に

4月23日、久々利八幡神社の大祭が行われました。市の無形民俗文化財に指定されている祭礼で、前後2台の山車が繰り出されるのが大きな特徴です。祭りの行列が獅子やみこしと一緒に町内を練り歩き、山車と合流して八剣神社に到着すると、獅子舞が披露されます。

最後にそれぞれの山車がからくり人形を演じます。お囃子に合わせて姫や大蛇などの人形が舞い踊り、たくさんのお見物客から拍手が起きました。



町を進む山車

信長の母・土田御前の像を披露

戦国武将織田信長の母で、可児市出身とされる土田御前の銅像が完成し、4月27日に除幕式と贈呈式が行われました。湯の華温泉などを経営し、市観光協会の会長を務める呉本勝男さんが市の観光の活性化に役立てようと私財を投じて制作し、市に寄贈したものです。

像は幼い信長を抱いてほほ笑み、右手を差し出している姿。贈呈式の後には訪れた人たちがうれしそうに土田御前と握手を交わしていました。



除幕式の様子



1人で立って踊る鈴の舞

受け継がれる古き良き伝統

川合の青木神社で4月9日に春の大祭が行われました。この大祭では市内でも珍しい獅子舞の奉納があり、中でも1人で立って踊る唯一の獅子舞です。もともと獅子舞は厄病退治や幸せを招くために行われ、川合地区では悪魔払い獅子といわれ、代々受け継がれている民俗芸能です。

この日は地元の子もたちをはじめとした多くの観客が見守り、特徴ある獅子舞の動きに魅了されました。

もこもこのお布団だあ

4月24日に、久々利にある原見牧場で初めての羊の毛刈りが行われました。この牧場はテクノタカギ^{たかぎ}が所有する牧場で、環境に優しい方法で除草するために羊が飼われています。

この日毛刈りが行われた4頭は昨年生まれたばかりで、久々利保育園の園児たちが名前を付けました。訪れた園児は「こんなにもたくさんの毛が取れた。すごい」と初めて見る毛刈りを楽しみました。



羊を見守る園児たち

誰もが安心して暮らせるまちづくり

市は市有地を無償で貸与し、建設・運営を行う事業者を公募して障がい福祉サービス事業所を整備する取り組みを進めてきました。この4月には広見に障がい者向け就労支援施設のけやき可児、瀬田に障がい者通所施設のハートピア可児の杜とグループホームのサンライズ可児の杜が開所しました。

誰もが地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを進めていきます。



喫茶店も併設する就労支援施設けやき可児